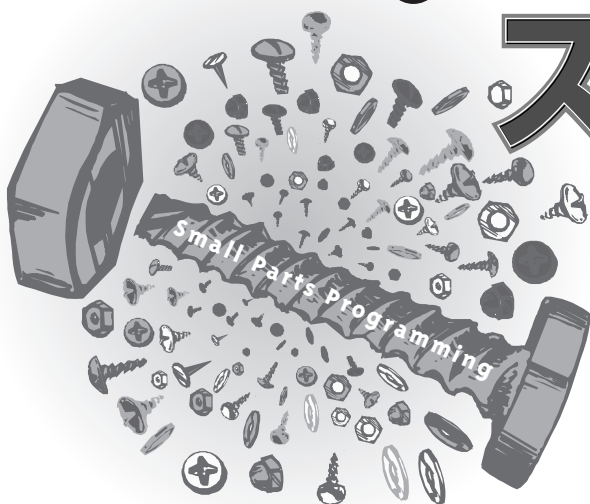


VB.NET

コンポーネント活用講座
～ 教養課程 ～



スモールパーツ プログラミング

第18回

小森 大輔 KOMORI, Daisuke

MainMenuコントロール、 ContextMenuコントロール — Part 1 —

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥SMALLディレクトリに収録しています。

¥MAINMENSAMPLE
メニュー項目の作成

¥MENUITEMSAMPLE
メニューが選択された際の処理

本連載は、Visual Basic .NET (以下VB.NET) の標準コントロールにスポットを当て、とことん使い込んで、その機能や役割を探ってゆきます。

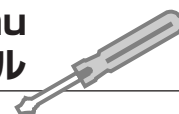
ほとんどのWindowsアプリケーションには、さまざまな「機能」が備えられています。たとえばメモ帳(notepad.exe)を例に取れば、テキストファイルを開く機能、開いたファイルの文字列をクリップボードにコピーする機能、コピーした文字列を貼り付ける機能、修正したファイルを保存する機能などなど。比較的単機能な（と言っては語弊があるかもしれませんが）メモ帳を見ても、たくさんの機能がありますよね。

これらアプリケーションの「機能」を呼び出す際に、ユーザーはアプリケーションの「メニュー」を使用して目的の操作を実行します(図1)。

今回から2回にわたり、この“アプリケーションにはなくてはならな

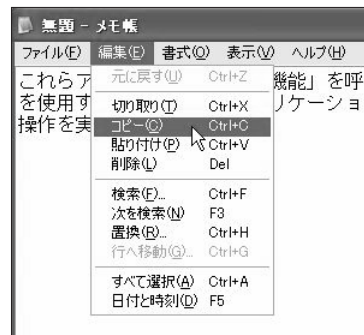
いものと言っても過言ではない”メニューを作成する「MainMenuコントロール」と「ContextMenuコントロール」について見てゆくことにしましょう。

MainMenu コントロール



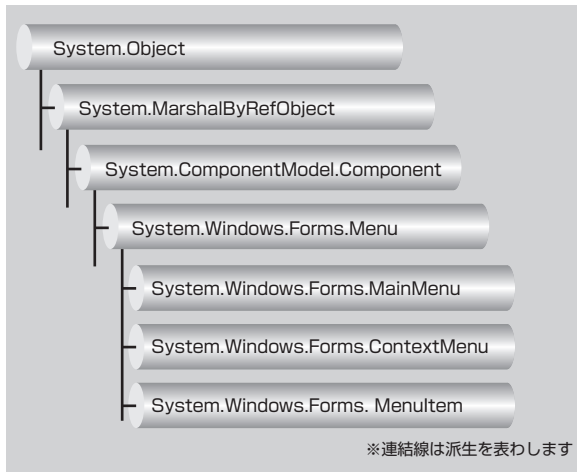
MainMenuコントロールは、アプリケーションウィンドウのメニューをビジュアルに作成することができるコントロールです。このコントロールのクラス階層は図2のようになっています。

図1：メモ帳のメニュー



Small Parts Programming

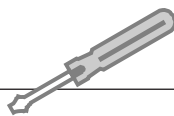
図2：MainMenuクラス階層図



ここで特記しておきたいのは、MainMenuコントロールは他のさまざまなコントロールのように、System.Windows.Forms.Controlクラスから派生しているのではなく、「System.Windows.Forms.Menu」というクラスから派生している」という点です。これによりMainMenuコントロールは、他のコントロールのような、BackColor、ForeColor、FontなどといったSystem.Windows.Forms.Controlクラスから継承している一般的なプロパティは持っていません。

また、MainMenuコントロールが継承しているSystem.Windows.Forms.Menuクラスには、「ContextMenuクラス」「MenuItemクラス」という2つのクラスも派生しています。

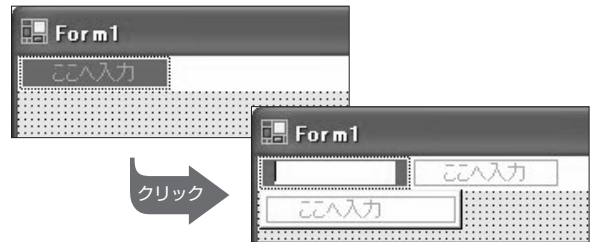
メニュー項目の作成



フォーム上でMainMenuコントロールへメニュー項目を作成するのは、とても簡単な作業です。

ツールウィンドウからフォームに、MainMenuコントロールをドラッグ&ドロップすると、メニューが表示される位置に、「ここへ入力」と書かれたボックスが表示されます。そのボックスをクリックすると入力可能な状態になり、同時にボックスの右側には「同じ階層のメニュー項目を作成するボックス」、下側には「次の階層の

図3：メニュー項目の作成



メニュー項目を作成するボックス」が表示されます(図3)。このボックスへどんどんメニュー項目を作成してゆけばよいというわけです。

まずは基本から

では、例としてお約束のように、ルートメニューに「ファイル」というメニューを作成してみましょう。

一番初めに表示されたボックスへ「ファイル(&F)」と入力します。この「(&F)」は、アクセスキーを表わし、アプリケーションを使用するユーザーが、[Alt] キーと同時にこのキー（この場合は [F]）を押せばメニューへアクセスすることができるものです。アクセスキーは、「&」記号+アクセスキーに使用するキー」という文字列で表わすように決められています。

また、これは必須ではありませんが、アクセスキーはメニュー項目の最後にカッコ付きで表わすのが一般的です(図4)^{注1}。

続けて [ファイル] メニューの下の階層に、[新規作成] [開く] [閉じる] [終了] というメニューも作成してみましょう。図5の [閉じる] メニューと [終了] メニ

注1) 英語圏のアプリケーションなどの中には、メニュー項目の項目名の頭文字をそのまま「&File」などとしてアクセスキーにするものが多いようです。

図4：アクセスキー



実際のメニュー表示